

コロナ禍のなかで

監事 河井竹彦

日本で最初の新型コロナウイルス感染症患者が 2020 年 1 月 16 日に報告され、1 年余が経過した。2021 年 1 月 7 日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が再度発出された。1 月 17 日には、全世界で新型コロナウイルス感染症の感染者数が、一億人を超え 100,286,643 人になったとの新聞報道があった。



全世界の 70 人から 80 人に一人が感染したことになった。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) によって引き起こされる感染症である。西暦 2000 年前後から世界では、4 年もしくは 5 年おきにパンデミック (感染症の世界的大流行) が発生していると報告されている。1997 年に鳥インフルエンザ A (H5N1)、2003 年に重症急性呼吸器症候群 (SARS)、2009 年に新型インフルエンザ A (H1N1)、2012 年に中東呼吸器症候群 (MERS) そして 2020 年に COVID-19 のパンデミックである。

イタリア人作家パオロ・ジョルダノー氏が外出制限下で綴り、昨年の 3 月中旬に発表したエッセー集「コロナの時代の僕ら」のなかで、コロナは社会をレントゲンにかけるように今まで気づかなかったことを明らかにするだろうと書いている。我が国の医療体制の逼迫、PCR 検査の在り方、出入国管理の体制、ワクチンの開発・接種など、これまで気づかなかったことが COVID-19 を契機に我々の前に提起されている。医療体制では、診療ベッド数が OECD 諸国では最も多いが、診療医師数が少なく、医師一人の負担が多いことが逼迫の要因の一つのようである。

先進国の中で新型コロナウイルスのワクチン接種が唯一実施されていないのは、日本だけである (2 月 7 日現在)。日

本におけるワクチン開発は、1970 年代までは世界でもトップグループであったが、1980 年代に入りワクチンによる副作用への訴訟などにより、ワクチン開発から撤退する企業が増えたようである。また、はしかの予防接種が義務化から外れ、一時期国内で流行し、海外からは、はしかの輸出大国と呼ばれたこともあった。

中国武漢在住の女性作家、方方 (Fang Fang) 氏が、昨年の武漢封鎖の 2 日後の 1 月 25 日からブログ投稿した 60 日間の記録が「武漢日記 (封鎖下 60 日の魂の記録)」として出版されている (中国国内では出版禁止)。外出が禁止された 2 か月の大変な状況が同情を誘う。SNS やブログを通じて友人や知り合いの方々と情報交換をし、ネット通販で食料品などを確保している日常の記録は興味深い。日本の緊急事態を早く脱し、ワクチン接種が進むことを願う今日この頃である。

2020 年度活動報告

研究集会「下水道雨水貯留管のマネジメント

- 河川との関わりと運転管理を語る - 開催報告

理事 竹石和夫

1 月 28 日 (木)、研究集会「下水道雨水貯留管のマネジメント」が開催され、阿部理事とともに担当させていただいた。研究集会のオンライン開催は 2 回目であった。

降雨の激化により浸水被害が増大している。下水道の浸水対策は雨水管、ポンプ場を整備し、雨水を速やかに排除することが基本であるが、河川等への排水に制約のある地域では、雨水貯留管の整備事例が増えている。そこで本研究集会では、貯留管の計画・運転管理について先進自治体の現状を紹介するとともに、貯留管の計画や運転方法、下水道と河川との連携方策等についての情報提供を目的とした。

佐藤理事長の挨拶の後、4 人の講師による講演が行われた。まず横浜市下水道事業マネジメント課長早川正登氏より、横浜市における貯留管の活用例が報告された。急速に市街化した鶴見川流域で、我国最大の下水道貯留管である新羽末広幹線が被



令和3年水倶楽部オンライン新年会開催

Zoom 分科会事務局 齋藤 均

水倶楽部会員の皆様、令和3年が早くも一ヵ月過ぎました。如何お過ごしでしょうか。時の流れを非常に早く感じる今日この頃です。大変遅ればせながら、本年もよろしく願いいたします。

さて、現時点（2月上旬）でも首都圏等で、新型コロナウイルス感染症流行に対する「緊急事態宣言」が出ています。従来通りであれば、各研究集会などの場で、会場に会員が集い、直接懇親を深める機会がございました。ただ、昨今の社会情勢下、会場集合型の研究集会開催もままならず、会員間の相互親睦を深める機会が持てずにあります。

そこで、Zoom 分科会が主催となり、去る1月8日（金）に「オンライン新年会」を開催しました。参加者は佐藤和明理事長以下、亀田泰武、柏谷衛、神山真一、村上孝雄、秋山礼子、鈴木雅之、栗原秀人、星隈保夫、高橋正宏、石川高輝、押領司重昭、大貫廣美、清水洽、竹石和夫、齋藤均（幹事）の全16名「順不同、敬称略」。新年会は、各自の自己紹介から始まり、終始和やかな雰囲気で行われました。途中、秋山様ご子息にご参加頂き、新年会参加メンバーへ「東京湾の水質」についての質問がありました。これに対し「東京湾干潟観察会」主催の亀田顧問を中心に、活発な議論が飛び交い、楽しいひと時を過ごしました。もちろん最後は、彼；秋山君を当クラブ新規入会へ積極的に勧誘させて頂きました。

さて、Zoom が他の PC アプリと異なる所は、接続練習に「相手」が必要な事です。一度接続が出来てしまえば、Zoom アプリの操作自体は簡単です「接続中の操作はほとんど無し」。PC 越しですが、遠隔地の相手とバーチャルリアルでの対面会話は、非常に楽しいです。水倶楽部の Zoom は、一度に全会員の PC が同時接続可能。直近では、3月5日（金）18時半～「オンライン懇親会」の開催を予定しています。Zoom の接続サポートは Zoom 分科会メンバーが行います。遠隔地在住の方も、移動時間・開催場所を気にせず、ご自宅から懇親会に参加出来ます。奮ってご参加下さい。お待ちしております。連絡先は、Zoom 分科会事務局：齋藤均まで。よろしくお願いいたします。

害軽減に貢献している。また、横浜駅周辺では竜宮橋幹線と東高島ポンプ場が計画されており、ポンプ場の改築にも活用される。民間貯留施設にも補助し 50 年確率降雨に対応するとのことであった。

次に、名古屋市上下水道局主幹太田宗由氏より、河川と連携したポンプの運転について報告があった。名古屋市では河川部局との信頼関係により全国で唯一、河川に余裕がある時に計画以上の排水を許容する二段階ポンプ運転調整が行われており、全国への普及が期待される。また、中央雨水調整池と広川ポンプ所の整備状況が紹介された。

3 番目の元大阪府下水道室長長谷川明巧氏は、歴史的に浸水問題を抱える寝屋川流域の総合治水対策について紹介し、流域下水道増補管と南北地下河川の整備状況を報告した。また、水害訴訟、ポンプ運転調整と情報公開、河川と下水道の連携の方向性について述べた。

最後に、国交省で下水道と河川両事業の経験を持つ高島英二郎氏は、雨水対策における河川と下水道の連携について述べ、河川事業の計画の考え方、首都圏外郭放水路について紹介するとともに、河川と下水道の計画手法の整合と連携方策について提言を行った。

質疑では、貯留管の水質保全機能の活用、気候変動への対応、AI など新技術開発の重要性、河川と下水道の連携のあり方と方向性等について議論された他、川崎市における合流改善と浸水対策への貯留管の併用利用について紹介があり、有意義な情報交換となった。今後も管路部会の活動の柱の一つとして雨水対策に関心を持っていきたい。

お知らせ

○オンライン懇親会開催

期日：3月5日(金)18:30～2時間程度

主催：亀田泰武顧問@基礎知識普及部会会長。

幹事：齋藤均@Zoom分科会事務局

内容：基礎知識普及部会メンバーを中心に、水倶楽部会員間の懇親を図ります。Zoomによるオンライン懇親会。参加者各自がPCを前に、飲み物等を片手に懇親を図る事が目的です。Zoom利用の練習にもなります。お気軽にご参加ください。参加申込みは、齋藤均までメールにて「たよりの配信メルアドを参照」。開催日当日@3月5日(金)11時まで参加受付致します。よろしくお願いたします。

編集幹事のあと整理

- 会の事業活動があるたびにその報告を掲載するため発行しています。今号は管路部会主催のオンライン研究集会です。執筆の竹石理事と阿部洋一理事が共同で開催に尽力されました。
- 今回もコロナ禍中で、発行日のいま、10都府県で緊急事態が延長中です。あと1ヶ月ですが、早期の解除を期待したいですね。
- 会員日よりコーナーへの投稿を募集しています。ステイホームなので多くの投稿を期待しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月